

令和8年度施政方針について

高子 秀明



同年6月から本運行を開始し、新たな地域内移動サービスのモデルとして期待されている。

市は小原地域内交通運営委員会に職員を参加させ支援している。現在白川地区でも住民主体の地域内交通導入に向け実証実験を計画しており、買い物支援の移動サービス構築を目指している。令和8年度から策定する次期地域公共交通計画では、移動実態と市民ニーズを踏まえ、市全域の公共交通の在り方と住民主体の補完的モデル構築を検討していく。

〔質問〕住民主体の地域内交通事業について、山間地域などの住民主体の地域内交通事業は、その「持続性」と「行政の関わり方」が重要である。現在の取り組みを長期的に継続し、さらに他地域へ展開を見据えるなら「人と地域が輝く未来共創交付金交付のほか、どのような支援策でモデル構築するか将来的な展望を伺う。

〔質問〕施政方針の中で「国全体の人口がさらに急激に減少していく中において、本市

だけが人口を増やし続けるということとは現実的ではありません」と「白石市を選ばれるまちにするため」の両記述は一見相反する意味合いに思えるが、整合性を持たせつつ本来の意図を伺う。

〔答弁〕〔市長〕全国的な人口減少の中で、本市だけが増え続けるのは難しいという認識は市民に共有されている。何もしなければ人口減少に加え高齢化が進み、若年層が住めなくなり社会基盤が維持できなくなるため、人口減少下でも白石市を持続可能なまちにするには若い世代が必要である。政府も地方創生2.0において若者女性に選ばれる地域づくりを重視しているように、人口減少を踏まえ白石市を選ばれるまちにする必要があると考えている。

〔質問〕施政方針の中で「国全体の人口がさらに急激に減少していく中において、本市

伝統工芸品の後継者育成について

佐藤 秀行



観光客受け入れ体制の強化を図るとともにSNS等を活用し、作品の魅力や工人の技術、制作風景などの情報を発信し、ブランドイメージの確立を図っていききたい。

〔質問〕今後地域おこし協力隊制度を活用していく場合、どのようなプロセスを経て進めていくのか、現時点でのスケジュールについて伺う。

◎本市の教育について
〔質問〕令和7年度から全小・中学校で導入した「チーム担任制」について、どのようなメリット、効果があるのか伺う。
〔答弁〕〔教育長〕子どもたちは、自分の良さや可能性を多角的にとらえた指導を受けられること。教員にとっては、子どもを多面的にとらえ、寄り添った指導ができること。また、教員の精神的な負担の軽減につながるなど、効果が挙げられる。

〔質問〕今後について、「チーム担任制」をどのように進めていく考えなのか伺う。
〔答弁〕〔教育長〕これまで行なってきた取り組みの成果や課題を整理し、児童・生徒、保護者の声をふまえ、より充実した内容で実施できるよう検討している段階である。

〔質問〕伝統的工芸品である弥治郎こけしの後継者育成に、地域おこし協力隊制度を活用することについて、市としての見解を伺う。
〔答弁〕〔商工観光課長〕この制度は、全国から意欲ある人材を任用できるメリットがある。他自治体でも取り組み事例があり、今後積極的に活用していきたい。
〔質問〕弥治郎こけしを生かした地域振興策、例えば観光振興や地域ブランド化など、今後の方向性について伺う。
〔答弁〕〔市長〕後継者育成の取り組みを継続し、